

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載

【部門区分】第 5 部門第 3 区分

【発行日】令和 3 年 1 月 14 日 (2021.1.14)

【公表番号】特表 2020-516837 (P2020-516837A)

【公表日】令和 2 年 6 月 11 日 (2020.6.11)

【年通号数】公開・登録公報 2020-023

【出願番号】特願 2019-530101 (P2019-530101)

【国際特許分類】

F 2 4 F 13/22 (2006.01)

【F I】

F 2 4 F 13/22 2 2 2

【手続補正書】

【提出日】令和 2 年 11 月 27 日 (2020.11.27)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】特許請求の範囲

【補正対象項目名】全文

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】

結露管理システムであって、

第 1 のフィルム支持体と第 2 のフィルム支持体との間で前記フィルムの長手方向軸線に沿って張力によって伸ばされるように構成された細長い可撓性フィルムを備え、前記フィルムが、

前記フィルムの幅にわたって横方向に延びる第 1 の端部及び第 2 の端部と、

前記第 1 の端部と前記第 2 の端部との間で長手方向に延びる第 1 の側部及び第 2 の側部と、

前記第 1 の側部と前記第 2 の側部との間に延びる凹面と、前記第 1 の側部と前記第 2 の側部との間に延びる反対側の凸面と、

前記凹面及び前記凸面のうちの少なくとも一方に配置されたマイクロチャネルであって、前記フィルムの前記長手方向軸線に対してゼロより大きい角度で配置され、前記フィルムが前記第 1 のフィルム支持体と前記第 2 のフィルム支持体との間で長手方向に伸ばされるときに、前記フィルムの前記凹面及び前記凸面に所定の曲率半径を生じさせるように構成される、マイクロチャネルとを備え、

前記所定の曲率半径が、前記第 1 の支持体と前記第 2 の支持体との間の距離に応じて変化し、

前記第 1 のフィルム支持体及び前記第 2 のフィルム支持体がそれぞれ、前記可撓性フィルムの前記第 1 の端部及び前記第 2 の端部がそれぞれ取り付けられる、実質的に平坦な取付面を有し、

前記フィルムの前記曲率半径の最小値が、前記第 1 のフィルム支持体と前記第 2 のフィルム支持体との間の前記フィルムの長手方向の中間点で生じ、

前記曲率半径の最大値が、前記第 1 のフィルム支持体及び前記第 2 のフィルム支持体の近くで生じる、結露管理システム。

【請求項 2】

前記フィルムの前記側部が、前記第 1 の支持体及び前記第 2 のフィルム支持体以外によって支持されない、請求項 1 に記載のシステム。

【請求項 3】

前記フィルムが、前記第 1 のフィルム支持体及び前記第 2 のフィルム支持体に取り外し

可能に取り付けられている、請求項 1 に記載のシステム。

【請求項 4】

前記マイクロチャンネルが、前記フィルムの前記凹面及び前記フィルムの前記凸面の一方又は両方に沿って延びている、請求項 1 に記載のシステム。

【請求項 5】

第 2 のマイクロチャンネルの組を更に備え、前記マイクロチャンネルの長手方向軸線が、前記フィルムの長手方向軸線と実質的に平行である、請求項 1 に記載のシステム。

【請求項 6】

前記マイクロチャンネルの長手方向軸線が、前記フィルムの長手方向軸線に対して 0 度超かつ約 60 度未満の角度で配置されている、請求項 1 に記載のシステム。

【請求項 7】

前記フィルムの底部が、前記第 1 のフィルム支持体と前記第 2 のフィルム支持体との間で重力方向に沿って下向きに傾斜している、請求項 1 に記載のシステム。

【請求項 8】

前記フィルムの下向き勾配が、約 0.01 ~ 0.2 である、請求項 1 に記載のシステム。

【請求項 9】

長手方向軸線及び横方向軸線の一方又は両方に沿った前記フィルムの剛性が、約 100 ポンド/フィート/リニアインチ ~ 約 1500 ポンド/フィート/リニアインチである、請求項 1 に記載のシステム。

【請求項 10】

前記フィルムが、ポリエチレン、ポリプロピレン、ポリエステル、コポリエステル、及びポリウレタンのうちの少なくとも 1 つを含む、請求項 1 に記載のシステム。